

特 61
372

明治二十七年十月刊行

現行
袖珍
四
討
令
大
王

大阪
法令館藏版

CZ
711
0188

凡例

- 一 本書ハ明治元年ヨリ明治廿七年十月ニ至ル迄ノ諸罰令ヲ訂正編纂セシモノナリ
- 一 本書ハ索引ニ便ナラシメシカ爲メ年月ノ順次ニ拘ラス類ヲ以テ之ヲ列載ス
- 一 本書中ノ法令ニシテ一部分ノ廢改加除アル者ハ直チニ各本條ニ就キ之ヲ訂正シ而シテ其條下へ何年何月何號法律又ハ省令ニ依リ云々ト付記ス

現行罰令大全索引

いノ部

○遺失物取扱規則

三百七十六丁

○意匠條例

百八十一丁

○醫師免許規則

二百九十二丁

○醫藥用及工業用酒精營業

○稅免除方

百三十八丁

はノ部

○罰例處斷法

一丁

○爆發物取締規則

二百八十九丁

○版權法

二百十八丁

○賣藥規則

百五十八丁

○全 印紙稅規則

百六十二丁

ほノ部

○保安條例

百九十八丁

○墓地及埋葬取締規則違犯

三百七十八丁

者處分

とノ部

○富藏賣買者等處分

三百七十三丁

○登記法

十八丁

○特許條例

百八十五丁

○取引所法

七十七丁

○全 稅法

八十三丁

○全 施行細則

八十四丁

○度量衡法

三百六十三丁

ちノ部

○徵兵令

一丁

○徵發令

九丁

○地租條例

五十九丁

○貯蓄銀行條例

七十五丁

○全 施行細則

七十六丁

こノ部

○大藏省證券條例

六十五丁

○乙種狩獵免狀有效期限	二百八十丁	やノ部	○藥品營業並藥品取扱規則	百五十五
かノ部			○藥用阿片賣買並製造規則	百五十六
○海上衝突豫防法	三百四十五丁	けノ部	○決闘條例	二百三十三
○海底電信線保護万国聯合條約罰則	三百六十丁	ふノ部	○檢疫停船規則	三百二十九丁
よノ部			○府縣會議員撰舉規則	九十三丁
○豫戒令	二百丁	乙ノ部	○戶籍法	十七丁
たノ部			○古物商取縮規則	百九十五丁
○烟草稅則	百八丁		○國稅滯納處分法	四十九丁
○全 施行細則	百十三丁		○公證人規則	廿七丁
なノ部			○小包郵便法	二百六十丁
○內國船難破及漂流物取扱規則	三百三十六丁		○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則	三百三十五丁
くノ部		てノ部		
○火藥取締規則	二百八十四丁			
○菓子稅則	百十九丁			
○外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則	三百二十四丁			

○電信條例	二百六十二丁	しノ部	○集會及政社法	二百六丁
○鐵道犯罪罰則	三百七十六丁		○出版法	二百十二丁
○傳染病豫防規則	二百九十七丁		○新聞紙條例	二百廿六丁
ひノ部			○寫真版權條例	二百廿四丁
○裁判所呼出遲不參罰則	三百七十八丁		○商標條例	百七十七丁
まノ部			○衆議院議員撰舉法罰則	八十九丁
○議會並議員保護規則	八十八丁		○衆議院議員撰舉法罰則補則ヲ府縣會議員撰舉法へ適用ノ件	百四丁
○危害品積込規則	三百廿七丁		○市町村會議員撰舉罰則	百五丁
○銀行條例	六十七丁		○銃砲取締規則	二百八十三丁
○全 施行細則	六十八丁		○銃砲取締規則違犯者處分方	二百八十三丁
○脚本樂譜條例	二百廿三丁		○車稅規則	三百三十三丁
○牛馬賣買規則	三百七十一丁		○酒造稅則	百二十四丁
ゆノ部			○全 附則	百三十三丁
○郵便條例	二百卅三丁		○酒精營業稅法	百三十三丁
○第三種郵便物認可規則	二百五十八丁			
みノ部				
○民事訴訟用印紙法	百七十二丁			

○全 施行細則	百三十五丁	○石油取縮規則	二百九十二丁
○營業營業稅則	百四十丁	○稅關法	三百四丁
○醬油稅則	百四十一丁	○稅關規則	三百八丁
○全 施行細則	百四十六丁	○船稅規則	三百十六丁
○實屋取縮規則	百九十二丁	○船籍規則	三百二十丁
○證券印稅規則	百六十四丁	○全 施行細則	全 丁
○商事非訟事件印紙法	百七十五丁	○西洋形船舶檢查規則	全 丁
○所得稅法	四十二丁	○西洋形日本船舶開港場出入規則	三百二十三丁
○種痘規則	二百九十五丁	○燈燈製造取縮	三百六十一丁
○獸醫免許規則	二百九十四丁	○燈燈信號器製造販賣規則	三百六十二丁
○獸類傳染病豫防規則	三百一丁	○全 施行細則	百卅三丁
○狩獵規則	二百七十二丁	○醉元用酒類製造規則	百卅三丁
○全 施行細則	二百七十八丁		
○震災地方租稅特別處分法	六十丁		
○信號器製造取縮	三百六十一丁		
○全 施行細則	三百六十一丁		
○請願規則	二百三丁		

七ノ部

現行 袖珍罰令大全索引終

現行 袖珍罰令大全目次

○罰例處斷法	一丁	○全 稅法	八十三丁
○徵兵令	一丁	○全 施行細則	八十四丁
○徵發令	九丁	○議會並議員保護規則	八十八丁
○戶籍法	十七丁	○衆議院議員撰舉法罰則	八十九丁
○登記法	十八丁	○全 罰則補則	九十二丁
○公證人規則	廿七丁	○府縣會議員撰舉規則	九十三丁
○所得稅法	四十二丁	○衆議院議員撰舉法罰則補則	九十四丁
○國稅滯納處分法	四十九丁	○府縣會議員撰舉法へ適用ノ件	百四丁
○地租條例	五十九丁	○市町村會議員撰舉罰則	百五丁
○震災地方租稅特別處分法	六十四丁	○煙草稅則	百八丁
○大藏省證券條例	六十五丁	○全 施行細則	百十三丁
○銀行條例	六十七丁	○菓子稅則	百十九丁
○銀行條例施行細則	六十八丁	○酒造稅則	百廿四丁
○貯蓄銀行條例	七十五丁	○全 附則	百五十五丁
○貯蓄銀行條例施行細則	七十六丁	○醉元用酒類製造規則	百三十三丁
○取引所法	七十七丁	○酒精營業稅法	百卅五丁
		○全 施行細則	百卅五丁

目次

○醫藥用及工業用酒精營業 稅免除方	百三十八丁	○保安條例	百九十八丁
○醫藥營業稅則	百四十丁	○豫戒令	二百丁
○醬油稅則	百四十一丁	○決闘條例	二百三丁
○全 施行細則	百四十六丁	○請願條例	二百三丁
○藥品營業並藥品取扱規則	百五十丁	○集會及政社法	二百六丁
○藥用阿片賣買並製造規則	百五十六丁	○出版法	二百十二丁
○賣藥規則	百五十八丁	○版權法	二百十八丁
○全 印紙稅規則	百六十二丁	○脚本樂譜條例	二百廿三丁
○證券印稅規則	百六十四丁	○寫真版權條例	二百廿四丁
○民事訴訟用印紙規則	百七十二丁	○新聞紙條例	二百廿六丁
○商事非訟事件印紙法	百七十五丁	○郵便條例	二百卅三丁
○商標條例	百七十七丁	○第三種郵便物認可規則	二百五十八丁
○意匠條例	百八十一丁	○小包郵便法	二百六十丁
○特許條例	百八十五丁	○電信條例	二百六十二丁
○質屋取締規則	百九十二丁	○狩獵規則	二百七十二丁
○古物商取締規則	百九十五丁	○全 施行細則	二百七十八丁
		○乙種狩獵免狀有效期限	二百八十丁

○銃砲取締規則	二百八十丁	○西洋形日本船舶開港場出 入規則	二百二十三丁
○銃砲取締規則違犯者處分	二百八十三丁	○外國形日本船舶輸出入稅未 納內外貨物回漕規則	二百二十四丁
○火藥取締規則	二百八十四丁	○危毒品積込規則	二百二十七丁
○爆發物取締罰則	百八十九丁	○檢疫停船規則	二百二十九丁
○石油取締規則	二百九十一丁	○虎列刺病流行地方ヨリ來ル 船舶檢查規則	二百三十五丁
○醫師免許規則	二百九十二丁	○內國船離破及漂流物取扱規則	三百三十六丁
○獸醫免許規則	二百九十四丁	○航海標識條例	三百四十四丁
○種痘規則	二百九十五丁	○海上衝突豫防法	三百四十五丁
○傳染病豫防規則	二百九十七丁	○海底電信線保護万国聯合 條約罰則	三百六十丁
○獸類傳染病豫防規則	三百一丁	○船燈製造取締	三百六十一丁
○車稅規則	三百三丁	○信號器製造取締	全 丁
○稅關法	三百四丁	○船燈信號器製造販賣規則	三百六十二丁
○稅關規則	三百八丁	○度量衡法	三百六十三丁
○船稅規則	三百十六丁		
○船籍規則	三百二十丁		
○全 施行細則	全 丁		
○西洋形船舶檢查規則	全		

○測量標規則	三百七十丁
○牛馬賣買規則	三百七十一丁
○富籤賣買者等處分	三百七十三丁
○遺失物取扱規則	三百七十六丁
○鐵道犯罪罰則	全丁
○裁判所呼出遅不參罰則	三百七十八丁
○墓地及埋葬取締規則違犯者處分	全丁

現行 袖珍 罰令 大全 目次 終

現行 袖珍 罰令 大全

◎罰例處斷法 明治十四年十二月 第七十二號布告

- 第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
 - 第二條 凡禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
 - 第三條 凡罰金及七料料ノ一圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス
 - 第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 - 第六條 法律規則中罰令ニト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス
 - 第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留料料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス
- 但始審裁判所所在地 除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス
- 徵兵令 明治廿二年一月廿一日 法律第壹號

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

◎罰例處斷法 ◎徵兵令

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫^{水夫}工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵ハ徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地方ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一

箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校小學校及撰科等府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員

ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シニ
甘
年法律第一號廿六年法律
第四號ヲ以テ改正追加

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上二十歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(同上)

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ眞子ニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス同上

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵メルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癘疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス

ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條一項ニ掲グル學校ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス上

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス二十八歲迄ニ歸朝シ又ハ二十八歲ヲ過キ歸朝セサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得上

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦全シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間ヨリ起算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

徵兵令

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ者ハ其戸主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第ニ條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス^同

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ

所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役ニ箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコ

徵兵令

トテ止メ滿二十七歳迄徴集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條ニ掲クル者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徴集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徴集猶豫ニ属シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徴集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徴員ト爲シ一箇年間明治二十一年日ヨリ起算スニ徴集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徴員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第一豫備徴員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徴員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徴兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徴集猶豫ニ属シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徴集延期ノ者及第卅九條第四十一條ニ掲クル徴集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ同上

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス同上

●徴發令 明治十五年八月十二日 布告第四十三號

第一條 徴發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ他方ノ人民ニ賦課シテ徴發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條 徴發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徴發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徴發不可キモノノ種類ニ依リ徴發區ニ準ス會社モ之之ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ

●徴發令

府縣 郡區

三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ

四 船舶會社所有ノ船舶及鐵道會社所有ノ汽車ハ

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時刻ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ爲シタル費用ハ本人ナシテ之ヲ弁償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノハ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藁鹽味噌醬油漬物梅干及薪炭
- 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具

町村
會社

三 人夫

四 宿舍廐園及倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道漁車

八 演習ニ要スル地所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノハ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一 造船所工作所及軍車ノ工作ニ要スル材料器具

二 職工礦夫洗濯人ノ類

三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具藥劑治療器械及繃帶具

四 水車搗春ノ類

五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一 皇族所用ノ車馬

二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬

●徵發令

- 三 乘馬本文タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
 - 一 公務ニ屬スル隣署
 - 二 皇族ノ邸宅
 - 三 外國公使館領事館及其所屬館
 - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
 - 五 陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋
 - 六 博物館書籍館
 - 七 病院盲啞院棄兒院
 - 八 學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニアラス
 - 九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サズ但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニアラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

トヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニアラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サズ廢圍倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廢圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グル者ヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

徵發令

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル運車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戶長ニ届出可シ其届出ハ徵發引渡ノ後左ノ期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 西洋形船舶 七日間
- 二 地所 評價委員ノ告示スル時日間
- 三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ離キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノハ外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

●徵發令

- 三 出帆及ヒ航路ノ定メナクシテ定貨ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額
- 第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料船舶賃費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス
- 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船積ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ船舶ニ充テタルモノノ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス
- 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外平常ノ定貨トス
- 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス此金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス
- 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス
- 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

- 第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ雇レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サハルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

● 戶籍法 明治十九年九月
內務省令第十九號

明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年(正月)第四號布告第八項寄留者届出方左之通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

戶籍法

- 第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ
- 第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第四條 隱戶主隱竊改名復姓身分變換其他顯濟ノ上戶籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上

● 戶籍法

又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ

但本籍地外ニアルトキハ現在地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若ク

ハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ料料ニ處ス

●登記法明治十九年八月法律第一號

朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與買入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定

賣場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ

已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壊シタル中ハ其物件ノ所有者ヨリ登

記ノ變更又ハ取消ヲ請フ可シ(二十年七月法律第一號ニテ本條改正ス)

農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ(二十三年九月法律七十八號ニテ追加)

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與買入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督ス可シ

第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱フシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サル地所建物船舶ノ賣買讓與買入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ヲキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與買入書入ニ付キ登記スヘキ概目左ノ如シ

第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面ノ價格

第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪造作ノ有無

第三 西洋形艦船ハ汽機、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、汽機、及汽機ノ種類端

船其他必用ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ艦名、番號、積石數、間數、端際其他必用ノ所屬品

第五 登記ノ理由

第五 金額

●登記法

第七 質入書入ハ其期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其實質

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其實質

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ(二十三年九月法律七)

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書(又ハ官廳ノ照會書)(二十三年九月法律七)ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ムヘシ(同上)

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スヲ得ス(二十三年九月法律一號ニテ改正ス)

第十一條 登記ノ謄本又ハ複書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄地審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證書ナク登記官吏ノ求ニ應ジ請求者ヨリ之ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得(二十三年九月法律七)

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

死亡者失踪者若クハ離縁戶主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬(二名以上) 又親屬ナキトキハ近隣ノ戶主二名以上ノ連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ依リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札送書及其代金完納ノ證書ヲ示スヘシ(二十三年九月七十八號ニテ尙一項ヲ加フ)

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

●登記法

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若シハ違書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ隠蔽若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下附若クハ書換ヲ請フ者ハ登記濟ノ證ヲ受クヘシ(二十年法律第一號ニテ改正セララル)

第三章 買入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ買入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(二十三年九月七十八號ニテ改正) 貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ買入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重子テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ買入ト爲シ又ハ買入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 買入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ

登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

第二十五條 地所建家船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

賣買代價	登記料
五圓未滿	五錢
五圓以上	十錢
十圓未滿	二十五錢
十圓以上	五十錢
二十五圓未滿	一圓
二十五圓以上	二圓
五十圓未滿	三圓
五十圓以上	四圓
百圓未滿	五圓
百圓以上	六圓
二百圓未滿	
二百圓以上	
三百圓未滿	
三百圓以上	
四百圓未滿	
四百圓以上	
五百圓未滿	
五百圓以上	
七百五十圓未滿	

●登記法

七百五十圓以上
 千圓未滿
 千五百圓以上
 千五百圓未滿
 二千圓以上
 二千圓未滿
 五千圓以上
 五千圓未滿
 壹方圓マテ
 以上五千圓マテ毎二圓ヲ増加ス

七圓
 八圓
 九圓
 十圓
 十二圓

第二十六條 地所建物船隻讓渡ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ毎一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶買入書入ノ登記ニ付テハ其買入人書入人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ毎一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ズ

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ
(二十年九月二十八號ニテ且加ス)

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ毎一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ズ

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム
(二十三年九月七十八號ニテ追加)

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ毎一件

第二 登記ノ謄本若クハ抜書ヲ請フ者ハ毎一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校、病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路溜池敷、堤敷、井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ヒ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格屆出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格屆出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金二十錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐欺ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五拾二號布告土地賣買讓渡規則同拾四年第三拾號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾歛下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記簿ニ未ダ登記セザル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第拾四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金一錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金一錢ヲ納メシム

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ

土地臺帳所管廳ハ明治二拾二年勅令第三拾九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ買入ニ付キ通知ヲ受ケタル場所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ
登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ

● 公證人規則 明治十九年八月十一日 法律第二號

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ有セス

第三條 公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルガアルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ跡アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所

ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受ク可シ已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効チ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求メアレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出サル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効チ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代類ヲ

嘱シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ其始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル簿紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出ツ可キ旨ヲ其志

尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ニ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラズ

●公証人規則

第十七條 公證人ハ其取扱タル公證事件ヲ漏洩ス可カラズ

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一 満二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ル事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代官人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ二百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クモ二箇月前ニ告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代官人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

●公證人規則

三十一

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第二十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五 證書ヲ作りシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス
接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

第三十二條 度量衡貨幣及名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ
既ニ隨シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得ス

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加カビエラシムルコトヲ欄外又ハ

末尾ノ餘白ニ附記シ公證人并ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違イタルトキハ追加、改正、消字ノ効ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作りタルトキハ關係人ニ讀聞カセ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住所ト肩書ス可シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス
若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人并ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラズ若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サハルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

●公證人規則

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ其原本ニ連続ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ對印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連続スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨ヲ原本ノ關外又ハ末尾ニ附記シ公證人并ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違イタルトキハ正本ノ効ヲ用セス

正式謄本及抄 正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得而本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作りタル後ニ作りタルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違イタルトキハ其効ヲ有セス

裁判官ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾並ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ其原本ニ連続ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルルハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ年月日及場所ヲ記シ公證人並義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違イタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係テ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得
正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニアラサレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡スコトヲ命スルコトアル

公證人規則

可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違イタルトキハ其効チ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効カモ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附属書類ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ケ可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ隨シタルモハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ノ認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停

●公證人規則

職者之ヲ擔當ス可シ兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内

ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依リ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附

シ可シ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付拾錢但一行二十字二十行ヲ以

テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料

ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎

ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキ

ハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ全額ニ拘ハラヌ管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタルトキハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條

ヲニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタルトキ

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞カセシコトヲ記入セヌ又ハ肩書ヲ爲サトリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

公證人規則

- 第四十一條ニ違ヒタル時
- 第四十二條ニ違ヒタル時
- 第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十六條ニ違ヒタル時
- 第五十二條ニ違ヒタル時
- 第五十三條ニ違ヒタル時
- 第五十四條ニ違ヒタル時
- 第五十五條ニ違ヒタル時
- 第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時
- 第六十一條ニ違ヒタル時
- 第六十三條ニ違ヒタル時
- 第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス
- 第四十三條ニ違ヒタル時
- 第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

- 第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二條ニ違ヒタル時
- 第七條ニ違ヒタル時
- 第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第二十八條ニ違ヒタル時
- 第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時
- 第三十三條ニ違ヒタル時
- 第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第三十六條ニ違ヒタル時
- 第三十七條ニ違ヒタル時
- 第三十八條ニ違ヒタル時
- 第三十九條ニ違ヒタル時
- 第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
- 第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第十五條ニ違ヒタル時
- 第十六條ニ違ヒタル時
- 第十七條ニ違ヒタル時

●公證人規則

第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入サルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

● 所得稅法

明治二十年三月十九日 勅令第五號

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ム可シ

但同居ノ家族ニ屬スル者ハ總テ戸主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出ス可シ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二條 一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅(區町村費、備荒蓄金、製造品ノ原買物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三條 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高ヲ以テ算出ス可シ但シ所得收入以來未ダ三年ニ滿タサルモノハ月額平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出ス可シ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷疾疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	稅率
第一等 所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等 所得金高貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等 所得金高壹萬圓以上	百分ノ二
第四等 所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等 所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ム可シ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ム可キ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日迄ニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出可シ

● 所得稅法

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ補充ニ備フ可シ

第八條 調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス

同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉ス可シ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付ス可シ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サレル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付ス可シ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可シ同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ議決ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達ス可シ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ議決ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フ可シ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ム可シ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其議決ニ據テ之ヲ處分ス可シ但其納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付ス可シ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問

●所得稅法

スルコトヲ得

四十六

第二十二條 調査委員其他所得税ノ調査ニ關スル者ハ納税者ノ資産及所得ニ係ル事作テ他ニ漏洩ス可カラズ

第二十三條 納税者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其税額ヲ減シ所得金高一箇年ヲ三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅ス可シ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金高三倍ノ處罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附 則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限り七月三十一日迄ニ差出ス可シ

● 所得税法施行細則

二十年五月五日
大藏省令第八號

第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニテ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅ス可キモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生ス可キ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ル可キモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出ス可シ

第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ル可シ

第五條 左ニ掲ケル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム可シ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

第六條 一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者
一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第一號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出可シ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付ス可シ
但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ付ス可シ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスルトキ及轉居シタルトキハ各其地ノ戶長ヲ經

● 所得税法施行細則

四十七

テ郡區長ニ届出可シ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受ケタルトキハ直キニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報ス可シ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノノ所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告ス可シ

第十二條 調査委員會及調査委員選舉ニ條關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル故事アル者ニ限ル

第十四條 調査委員會ノ議決書ハ會長及委員二名以上之ニ署名ス可シ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達ス可シ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戸長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數郡ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定ス可シ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半数出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五

條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ
第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料ニ處ス

附 則

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ九月第十五條ノ達ハ十一月ニ之ヲ爲ス可シ
(書式略之)

●國稅滯納處分法 二十二年十二月二十日 法律第三拾二號

第一章 總 則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條 國稅ヲ其納限期ヲ過キ完納セサル者アルキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ

督促令狀ヲ發スルキハ手數料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條 滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ稅金ヲ完納セサルトキハ其所有財産ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滯納者財産ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキキハ差押ヲ爲ストテ得ス此場合ニ

●國稅滯納處分法

於テモ亦前條ニ同シ

第六條 滯納處分費滯納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ買入書入ト爲シタル財産ニ付テハ此限ニ在ラス

第七條 酒類醬油造石税ニ付滯納處分ヲ爲ストキハ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滯納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條 滯納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除ク外實際支辨スルモノヲ云フ

- 一 督促令狀手数料
- 二 差押調書及賣却書調製費
- 三 滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費
- 四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料
- 五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費
- 六 公告費
- 七 訴訟ニ要スル諸費

第九條 滯納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルキハ其財産ノ差押ヲ解タヘシ

第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條 滯納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス

第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲ストキハ收入官吏ヨリ其處分

ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章 差押

第十二條 財産差押ヲ爲スルハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第十三條 財産差押ヲ爲スルハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラズ之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券

第二 農業其他營業上ノ生産物、製造及賣品

第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生産物

第四 債主權

第五 不動産

第六 買入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ買入シタル動産ヲ除ク

第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ホスモノトス

第十五條 滯納處分着手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滯納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ

ハ其殘部ヲ差押ノヘシ其費却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルモハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第拾六條 第拾三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有ノ家屋倉庫其他滞納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滞納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルヲ得

第拾七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ費却決行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第拾八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルヲ得ス
第一 滞納者及同家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三拾日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭
第三 實印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑墓地
第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜日記、書付類

第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣
第七 勲章其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品未タ發行セサル著權書類

第拾八條 滞納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券

但所得稅ニ關シテハ此限ニ在ラス

第拾九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルモハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サハルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

第拾條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スルニ滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルヲ得
滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルモハ收入官吏場所ニ立入り取調ヲ爲スヲ得

第二拾一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滞納者若クハ其同居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルモハ其所用若クハ其同居家族ナシテ立會ハシムヘシ
滞納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルモハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二拾二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戶倉庫房屋及筐匣等ノ閉鎖シアルモハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クヲ得

第二拾三條 收入官吏財産差押ヲ爲スルハ差押命令書ヲ携帶シ滞納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二拾四條 財産ヲ差押ヘタルルハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二拾五條 通貨及第拾三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第拾三條第貳以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二拾六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルヲ得
第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ
此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ
負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滞納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルルハ其履行ノ効ナキモノトス
第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルルハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 買入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件、處分費、稅

金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費稅金ヲ完納シタルルハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三拾條 財産差押ノ手續ヲ終リタルルハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課稅地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場
第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルルカ又ハ滞納者ノ請求アルルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルヲアルヘシ
第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價額一圓未満ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ得
第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルルハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルルハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルヲ得

第三十四條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トテ間ハス其賣却物件ヲ買受ルヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價格ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラヌヲ之賣却スルヲ得

第三十七條 收穫前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押ノルヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ違セサルキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價格尙ホ豫定價格ニ違セサルキハ豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費稅金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費稅

金ニ充テ尙ホ殘餘アルキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滯納者ニ交付スヘシ買入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ買受人賣却調書ニ署名捺印スルヲ能ハサルキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルキハ收入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費稅金ニ充テ尙ホ殘餘アルキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルキハ其代金ヨリ先ツ處分費稅金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテテ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納稅金ノ納期限ヨリ一ヶ年前ニ買入書入ト爲シタルモノナルキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテテ債主ニ交付シ次ニ處分費稅金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以内ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルキ之ヲ交付スヘシ

●國稅滯納處分法

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取りタル者ヨリ領收書ヲ取りテ收入官吏ニ差出スヘシ受取人領收書ヲ記スルヲ能ハサルキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取りテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市長村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スヲ能ハサルキハ公示スヘシ公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住所不分明ニシテ配達スルヲ能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第廿一條第一項ノ立會ニ四セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滯納處分ニ對シ財ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附 則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原嶼伊豆七島ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ抵觸スル條項ハ總テ廢止ス

●地租條例 明治十七年三月第七號布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及ヒ地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

●地租條例

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ依リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類トナス

第一類、田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧地、原野、雜種地 (第二類ハ廿二年法律第三十號ニテ改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ各地目變換ト云フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト云フ

一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト云フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及ヒ公衆ノ用

ニ供ス道路ハ地租ヲ免ス (二十二年第三十號ニテ改正)

第五條 土地ノ丈ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲シ但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ

勾ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルキハ地盤ヲ丈量ス (二十二年第三十號ニテ改正)

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルキニアラサレハ之ヲ修正セス (二十二年第三十號ニテ改正)

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルキハ地方廳ハ届出ツヘシ 地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス 但シ第十六

條第六項ノ場合ハ此限ニアラス 第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ據置六年目ニ至リ之ヲ修正ス (二十二年第三十號ニテ改正)

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地畫帳記名者ヨリ徵收ス但シ買入ノ土地ハ其買取主ニ於テ之ヲ收ムヘシ (二十二年第十號ニテ改正)

第十三條 第一項左ノ如ク改ム 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地ノ租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路トナスキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此ノ限ニアラス (二十二年第三十號ニテ改正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期間ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス (二十二年第三十號ニテ改正)

第十六條 開墾ヲナサントスルキハ地方廳ニ差出ヘシ前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其ノ成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス 十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲナサントスルキハ地方

●地租條例施行細則

應ニ願出テ繳下年期ノ許可ヲ受クヘシ繳下年期ハ三十年以内トス但シ年期中ハ原地價エヨリ地租ヲ徵收ス 官有地ヲ開墾シテ民有地ニ歸セシ土地ハ其ノ素地相當ト認ムル處ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ繳下年期ヲ許可ス但年期中ハ原定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス 官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス 耕地ノ區隔若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル者ハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年期ヲ許可スルヲアルヘシ(二十二年第三十號ニテ改正)

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ專業成功ニ至ラサル者ハ更ニ二十年以内ノ續年期ヲ許可ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第十九條 繳下年期地價據置年期明新開地租年期明ノ其ノ地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十條 荒地ハ其年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地假ニ復ス海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニヨリ前項ニ準據スルヲアルヘシ(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十一條 荒地免租年期間ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ歸セシ他ノ地目ニ變スル者ハ其地ノ現況ニヨリ地價ヲ定ム(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二條ニヨリ處分ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十四條 川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ廿年以内免租年期ヲ許可ス其ノ年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セシ他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ違統スルモノハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十六條 第十條ニ違犯スルモノハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且ツ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租ヲ徵收ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(二十二年第三十號ニテ改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ開墾ノ届出ヲサトルモノハ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租額ヲ追徵ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(明治二十二年法律第三十號ニテ改正)

第二十八條 第二十五條以下ノ處犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

●地租條例施行細則

●震災地方租稅特別處分法（明治廿五年六月十三日）

（法律第一號）

第一條 本法ハ三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣及福井縣ニ限リ明治二十四年十月二十八日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源河潟水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與スルコトヲ得

第四條 過半ノ家屋燒失若ハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若ハ市街ニ準スヘキ部落ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納年賦金ハ之ヲ免除ス

第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受タルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十四年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ三年以内延納ヲ許スコトヲ得

第八條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ

震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第九條 醬油菓子賣藥烟草度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ左ニ掲クル稅金ニ限リ減免スルコトヲ得

一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ稅金

一 醬油營業稅菓子營業稅賣藥營業稅烟草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ稅金

第十條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十一條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十二條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスル者ハ明治二十五年八月三十一日マテニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受ルコトヲ得ス

●大藏省證券條例（明治十七年九月）

第二十四號布告

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

（別紙）

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲ス者トス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓一萬圓及拾萬圓ノ六種ニ別テ其仕拂期限ハ十二箇月

●震災地方租稅特別處分法 ●大藏省證券條例

以丙トス(明治廿六年十二月法) 律第十九號ニテ改正)

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂ノ期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ検査シ其真正タルヲ證明シ得ヘキ者ニアラザルハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同標ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二名以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

銀行條例 明治廿三年八月 法律第七十二號

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲換事業ヲ爲シ又ハ預預及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ヰルニ拘ラズ總テ銀行トス

第二條 銀行ノ專業ヲ管ントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三條 銀行ハ毎半年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スベシ

第四條 銀行ハ毎半年營業財産目録ノ貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スベシ

第五條 銀行ハ一人又ハ一會社ニ對シ資本金高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第十時ヨリ午後第四時マテトス但營業ノ都合ニ係リ之ヲ增加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

銀行條例

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大蔵大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ專業ヲ營ミタル者ハ商法第百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依リテ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

●銀行條例施行細則 明治廿六年五月十日 大蔵省令第七號

第一章 銀行ノ設立

第一節 合名會社及ヒ合資會社

第一條 合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ專業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大蔵大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 各社員ノ氏名

第三 開業セントスル年月日

第四 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名及ヒ住所

第五 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第二條 合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ專業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大蔵大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 各社員ノ出資額

第二 會社ノ社名及ヒ營業所

第三 各社員ノ氏名

第四 開業セントスル年月日

第五 無限責任社員アルトキハ其氏名

第六 業務擔當社員ノ氏名及ヒ住所

第七 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第三條 合名會社合資會社ハ大蔵大臣ノ認可ヲ得テ設立シタルトキハ專業著手前ニ商法第七十九條又ハ同法第三百三十八條ノ事項ヲ登記スルノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 合名會社合資會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大蔵大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社契約及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大蔵大臣ニ届出ツヘシ

第五條 前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第八十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル

●銀行條例施行細則

後七日以内ニ其登記ヲ受クヘシ

第六條 合名會社合資會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第七十八條又ハ同法第八十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第八十二條ニ依リ登記ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモツトス

第二節 株式會社

第七條 株式會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ四人以上ノ發起人連署捺印シテ目論見書及ヒ假定款ヲ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ目論見書、定款、株式申込簿、發起ノ認可證及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 取締役ノ氏名及ヒ住所

第三 開業セントスル年月日

第四 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第九條 株式會社設立ノ認可ヲ得テ發起人ヨリ事務ノ引渡シヲ爲シタルトキハ取締役ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込金額各株式ノ四分ノ一以上ニ達スルトキハ事業著手前ニ商法第六十八條ニ依リ登

記ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 株式會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社定款及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 株式會社ハ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第二百十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後直ニ其登記ヲ受クヘシ

第十二條 株式會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第六十八條又ハ同法第二百十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第七十條及ヒ第八十二條ニ依リ登記ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモツトス

第三節 各人

第十三條 各人ニ於テ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ營業科目並ニ資本金額ヲ記載シタル願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 營業所

第二 開業セントスル年月日

第三 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第十四條 營業科目及ヒ資本金額ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣

銀行條例施行細則

ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

参考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大蔵大臣ニ届出ツヘシ

第二章 營業

第十五條 銀行ハ營業上一切ノ取引ニ使用スル印章ヲ定メ其印鑑ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大蔵大臣ニ差出スヘシ改印スルトキモ亦同シ

第十六條 本店及ヒ支店ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ地方長官ヲ經由シ其期日ヲ大蔵大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 銀行ハ其名稱ヲ掲牌ニ記載シ營業時間中ハ之ヲ其銀行ノ店前公衆ノ目ニ觸レ易キ所ニ掲クヘシ

第十八條 銀行ニシテ支拂ヲ停止スルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ直ニ之ヲ大蔵大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各人ニシテ銀行ノ營業ヲ營ムモノ其事業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大蔵大臣ニ報告スヘシ

第二十條 合名會社合資會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ解散スルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大蔵大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大蔵大臣ニ報告スヘシ

商法第二百三十四條及ヒ同法第二百五十五條第二項ノ届出ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大蔵大臣ニ差出スヘシ

第二十二條 地方長官ハ銀行ニシテ法令ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ其事狀ヲ具シ直ニ之ヲ大蔵大臣ニ報告シ其指揮ヲ請フヘシ

第三章 報告及ヒ公告

第二十三條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月マテ及ヒ七月ヨリ十二月マテトシ之ヲ銀行ノ營業年度トス

第二十四條 銀行條例第三條ノ營業報告書ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ之ヲ發送スヘシ但シ遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ本條ノ期日内ニ報告書ヲ發送スル能ハサルモノハ地方長官ヲ經由シ豫メ大蔵大臣ノ認可ヲ受ケ其期日ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 銀行ハ前條ノ報告書ヲ發送スルト同時ニ銀行條例第四條ノ公告ヲ寫スヘシ

第二十六條 銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙アルトキハ他地方ノ新聞紙ニ公告スルト否トニ拘ラス所在地方ノ新聞紙ニ公告スルヲ要ス

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ最寄地方又ハ取引先多キ地方ノ新聞紙ニ公告シ尙ホ營業所ノ店前ニ掲示シテ公告スヘシ

第二十七條 銀行條例第七條但書ニ依リ休業セントスルモノハ少ナクトモ三日以前地方長官ニ届出テ同時ニ銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙ニ公告スヘシ

●銀行條例施行細則

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ營業所ノ店前其他公衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ
少ナクトモ三日前ヨリ公告スヘシ

第二十八條 銀行ヨリ大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ添付シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 檢査

第二十九條 銀行條例第八條ニ依リ檢査ヲ爲ストキハ其檢査ヲ命セラレタル官吏ハ檢査官タル證
票ヲ携帶スヘシ

第三十條 銀行ハ檢査官ニ於テ檢査上必要トスル營業用ノ金庫、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類
ハ其要求ニ應シテ之ヲ示シ又ハ説明ヲ爲スヘシ

第三十一條 檢査官檢査ヲ終了シタルトキハ其檢査ノ願末ヲ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第五章 補則

第三十二條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル株式會社ニシテ銀行ノ營業ヲ營ムモノ銀行條例
施行後ニ其營業ヲ繼續セントスルトキハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル合名會社合資會社又ハ各人ニシテ銀行ノ營業ヲ
營ムモノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ本規則第一條第二條又ハ第十三條出
願ノ手續ニ準據シ本年六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

前項届出ヲ爲サルモノハ總テ新ニ其事業ヲ開始スルモノト見做スヘキヲ以テ本規則第一章ノ
規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

●貯蓄銀行條例 明治廿三年八月 法律第七十三號

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業
ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三万圓以上ノ株式會社ニアラサレバ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス但其責任ハ退任後一
箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本金ノ半額ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券ニ
テ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一 貸付

第二 證券ノ割引

第三 國債證券及地方債證券ノ買入

第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ國債證券地方債證券ヲ
質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力ニ付疑フヘキ理由ノ存セザル者二名以上ノ裏
書アル爲替手形約束手形ニ限ルヘシ

○貯蓄銀行條例

貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期賣買ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

●貯蓄銀行條例施行細則 明治廿六年五月一日

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券ハ營業著手ノ日ヨリ三日以内ニ明治二十三年大藏省

令第三十九號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

資本入金額ヲ増加シタル場合ニ於テハ拂込期日ヨリ三日以内ニ前項ノ預入ヲ爲スヘシ
本規則第五條ノ認可ヲ受ケントスルモノハ貯蓄銀行條例施行後三日以内ニ第一項ノ供託ヲ爲スヘシ

第二條 證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ直ニ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ地方長官ニ届出ツヘシ

第三條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、番號、券面金額ヲ記載シ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

第四條 貯蓄銀行ノ事業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ

第五條 貯蓄銀行條例實施前ヨリ貯蓄預金ノ事業ヲ營ム株式會社ニシテ貯蓄銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルモノハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル

●取引所法 明治廿六年三月三日

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織

●取引所法

第五條 取引所ハ土地商業ノ情况及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得 株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得 取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得 取引所ハ其ノ倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

第三章 取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員、株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ満期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス 仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ間ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ 免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ當ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

●取引所法

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條 第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應ジ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徴收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散

二 取引所ノ停止

三 取引所一部ノ停止若ハ禁止

四 役員ノ解職

五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

●取引所法

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及成分ヲ停止シ禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 罰則

第三十一條 第十二條第一項及第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ規則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ

受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

●取引所稅法 明治二十六年三月三日 法律第六號

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、有價證券 賣買各約定代金高萬分ノ六箇

一 國債及地方債證券 同 萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ

取引所稅額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所稅金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトアルヘシ

第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一圓以上一圓九十九錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

附則

●取引所稅法

第六條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

●取引所法施行細則 明治三十六年七月二十二日 農商務省令第十三號

第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ假定款及發起人ノ履歷書ヲ添へ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

一 取引所ノ組織名稱位置

二 資本金及發起人各自ノ引受タル銀金額

三 資本金使用ノ概算

四 賣買取引スヘキ物件

五 取引所ノ地區ト爲サント欲スル市町村名

一六 設立ヲ要スル事由

七 賣買取引スヘキ物件ノ其市街内ニ於ル集散ノ沿革及現況

八 其市街内會員又ハ仲買人タルヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立メントスルトキハ發起人ハ商法第五百九條ニ據リ提出スヘキ發起認可申請書ニ第一條第四號乃至第八號ノ事項ヲ記載シタル書面及發起人ノ履歷書ヲ添へ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ

第四條 取引所設發立起人ノ人員ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類毎ニ二十五人以上タルヘシ

發起人ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類ニ對シ人員ノ二分一以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會員組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タルノ資格ヲ有スル者タルヘシ

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其他必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ

一 取引所ノ名稱位置及地區

二 賣買取引スヘキ物件

三 資本金、株式ニ關スル事項

四 會員仲買人ノ入退、身元保證金、組合、代理人ニ關スル事項

五 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項

六 會議ニ關スル事項

七 取引所手数料及仲買人口錢ニ關スル事項

八 仲買人ノ業務ニ關スル事項

九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項

十 賣買及受渡ニ關スル事項

十一 倉庫ニ關スル事項

十二 公定相場ニ關スル事項

十三 取引所ノ帳簿、記録及會員仲買人ノ帳簿ニ關スル事項

●取引所稅法施行細則

- 十四 取引所ノ出納決算ニ關スル事項
- 十五 準備ノ積立金保管及出納ニ關スル事項
- 十六 仲裁ニ關スル事項
- 十七 違約處分ニ關スル事項
- 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
- 第十九條 會員組織ノ取引所ノ發起人ニ於テ發起ノ認可ヲ得タルトキハ少クとも十四日間之ヲ公告シ會員ヲ募集スヘシ其公告中ニハ認可ノ年月日、第一條第一號乃至第四號ノ事項、取引所ノ地區及發起人ノ氏名ヲ掲載シ且各會員申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨ヲ附記スヘシ
- 株式會社組織ノ取引所ニ於テ目論見書ヲ公告シ株主ヲ募集スルトキハ其公告中ニハ商法第百六十條規定ノ外第一條第四號ノ事項及取引所ノ地區ヲ掲載スヘシ
- 第二十條 會員組織ノ取引所ノ發起人ハ會員ヲ募集シタル後創業總會ヲ開クヘシ其總會ニ於テ總會員申込人ノ半數以上ノ承諾ヲ得テ定款ヲ定メ役員ヲ選舉シ後テ設立免許申請書ニ會員申込簿ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ
- 株式會社組織ノ取引所ノ發起人ハ商法第百六十六條ニ據リ設立免許申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ
- 取引所ノ發起人ハ設立免許申請ト同時ニ定款及役員認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但役員ノ履歷書ヲ添付スヘシ

- 第二十一條 役員ノ認可ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ役員ニ引渡スヘシ
- 第二十二條 役員ニ於テ開業ノ準備ヲ整頓シタルトキハ開業ノ日ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ但株式會社組織ノ取引所ニ於テハ開業届出前ニ營業保證金納入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十三條 取引所ハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ開業セサルトキハ其免許ノ効力ヲ失フモノトス
- 第二十四條 取引所ノ仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第二十五條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サシメタルトキ之ヲ本人ニ交付スヘシ
- 第二十六條 免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第二十七條 仲買人應業シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ届出ツヘシ
- 第二十八條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ農商務大臣ニ申出テ更ニ其交付ヲ請フヘシ
- 第二十九條 仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ申出テ書換ヲ請フヘシ
- 第三十條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出スヘシ
 - 一 毎日及定相場表

●取引所稅法

- 二 每月賣買表
- 三 每月商品集散及商况報告
以上翌月十五日限り發送
- 四 收支豫算表
以上議定後十五日限り發送
- 五 每半季財産目錄
- 六 每半季貸借對照表
- 七 每半季損益計算表
- 八 每半季末日現在會員、株主、仲買人氏名表
以上決算期後二十日限り發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ
地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但取引所設立發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ特ニ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所ニ差出シ取引所ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

●議會並議員保護 明治二十三年十一月七日
法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ

處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ公訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辞セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毀傷シタル者ハ刑法殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

●衆議院議員選舉法罰則 (廿二年二月第三號法律ハ罰則ノミヲ掲ケ他ハ省略ス)

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

●議會並議員保護 ●衆議院議員選舉法罰則

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三拾四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九拾三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ撰學會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ煽惑シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ煽惑ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管轄者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ煽惑シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其情ヲ知テ煽惑ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八拾九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得ケル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
 第百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
 第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

●衆議院議員選舉法罰則補則明治二十三年五月廿九日 法律第四十號

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的
 ナ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉
 會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會
 場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ沐浴料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束
 及其ノ代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス
 第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐
 僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷
 ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法
 第十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシト
 ノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組

ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ
 所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ
 五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰
 金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ
 例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第百四條ノ例ニ依ル

●府縣會議員選舉規則明治二十二年二月廿六日 法律第六號

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄
 ニ郡長ニ差出スヘシ 撰舉人名原簿ニハ撰舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並
 ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名
 簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ
 撰舉人名簿ヲ調製スヘシ 撰舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齢及七年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ

●府縣會議員選舉規則

其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財産主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ 前項ノ届出ヲ爲サル納稅額ハ撰舉及ヒ被撰舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及ヒ撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得
第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ 前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ 毎年確定ノ撰舉人名簿ハ臨時ノ補缺撰舉ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補選撰舉ノ場合ハ此限ニ在ラス 前項ノ時期ハ府縣ノ情况ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少ナクトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻撰舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ 若シ正議員ノ外補選員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ 選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタル中ハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遲クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ 選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ 立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ 選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 撰學會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ撰學錄竝ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ投票函ハ投票ニ先チ參集シタル撰學人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヒ投票ノ當日撰學會場ニ備ヘ置キ撰學會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ 用紙ハ正議員ノ外補議員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補議員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ラ投票行ヲフヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人竝ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏

名ノ外住所若クハ位階勲其等他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ竝ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧嘩ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ

●府縣會議員選舉規則

入口ヲ閉サシメ參會者ニ開フニ未タ投票セサリシ者ナキヤテ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人ノ被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ 前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入竝ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長竝ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タルモノヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用ヒ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスヲ得 分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムル者トス 當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次点者ヲ以テ當選ト爲スヘシ

此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人竝ニ書記之ニ捺印スヘシ 前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴發アルトキハ一年ヲ過アルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名
- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
- 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末
- 六 投票函閉鎖ノ時刻
- 七 各被選舉人ノ得點數
- 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
- 九 選舉閉會ノ時刻
- 十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
- 當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉錄ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
 - 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
 - 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
 - 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勲等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
 - 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
 - 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七二觸ルモノアルト否トテ間ハ末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ

一八ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用フルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得 分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉錄ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ 分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルキハ之ヲ許スヘシ
第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票ノ票到着ヲ待チ第三十

三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ 當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サレトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ 當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第三項ニ依リ補關員ヲ增選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補關員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補關員ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其點次者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル但ニ定規

違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキ者ハ取消ノ限ニ在ラス 選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスノ當選者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者モ亦同シ

第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ

脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留、毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多クハ嘯集シテ剪條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會議規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

●衆議院議員選舉法罰則補則ヲ府縣會議員選舉法ニ適用ノ件

明治二十三年五月二十九日
法律第四十一號

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セズ

●市町村會議員選舉罰則

明治二十三年五月二十九日
法律第三十九號

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス
其供テ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス
其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者

●市町村會議員選舉罰則

ハ刑法第三百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被告人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノハ外刑法ニ正條アルモノハ各々其餘ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

●煙草稅則 明治二十一年四月 勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ癡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル

爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上 五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ犯則ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出
鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

●煙草稅則

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ
第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ
第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ
其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙
稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得且印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スル
トキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者
ニ賣渡貸渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借
受讓受クルコトヲ得ス但買流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但
買流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラルノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス
第十六條 煙草耕作人ニアラサル限ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十七條 煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス
第十八條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受ク

ルコトヲ得ス

第十九條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持
シ又ハ賣買貸借及讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買
受クルコトヲ得ス

第二十一條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス
第二十二條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十三條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査ス
ルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十四條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ通脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ
仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金
ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十五條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル
煙草ヲ沒收ス

第二十六條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十
圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十七條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓

●煙草稅則

以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉烟草ヲ烟草製造人烟草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造烟草ヲ烟草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 烟草自用者ニシテ葉烟草若クハ無印紙ノ製造烟草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造烟草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニノ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消滅シタルキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 烟草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ營業者ヲ處罰ス

第三十三條 烟草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ癡啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十四條 烟草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ烟草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル烟草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ務見入ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル烟草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ烟草仲買人烟草小賣人ノ所持スル卷烟草ハ烟草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻烟草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻烟草ハ其所持人ニ於テ烟草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ役從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

●烟草稅則施行細則

明治廿一年四月十六日

大藏省令第三號

今般勅令第二十號ヲ以テ烟草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

烟草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ烟草製造又ハ烟草仲買營業ノ免許ヲ願出ツル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出スヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官

●烟草稅則施行細則

府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 烟草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人ノ弟子ノ職工ノ數(職工ハ其住所正)ヲ其府縣ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第四條 稅則第二條但書及ヒ第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス

- 一 公摺ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 烟草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條 烟草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黃色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黃色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	一錢二厘
淡紅色	一枚	一錢六厘
桔梗色	一枚	一錢八厘
橙黃色	一枚	二錢
老綠色	一枚	二錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢二厘
黃綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造烟草ノ包裝每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

●烟草稅則施行細則

別烟草每一包(函)ニ付

百	八十	六十	五十	四十	三十	二十	十五	十	五
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
入	入	入	入	入	入	入	入	入	入

卷烟草每一包(函)ニ付

二百	五十	二十	十	六
本	本	本	本	本
入	入	入	入	入

第十條 税則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種烟草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り、又ハ紙包入りトシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニシテ之ヲ固着貼用印紙ヲ破毀セザレハ烟草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造烟草每箇ノ本數、定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 烟草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造烟草每一個ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ四五捨入ノ例ニ依リ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 烟草營業者ハ既ニ用ヒタル烟草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若シハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 烟草營業者ハ商品見本トシテ毎種別烟草五匁卷烟草十本葉烟草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルヲ得 (廿四年三月省令第二號) (ニテ改正ス)

第十六條 税則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 烟草製造人、製造スル烟草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ製造税則ニ從フヘシ

第十八條 烟草製造人、仲買人ニシテ葉烟草ヲ買入レ又ハ預リタルキハ一俵「カマス」又ハ一束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ預リタル番號、年月日預ケ主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 烟草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ烟草ヲ藏置

スルコトヲ得ス但第二十條ノ認可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス (明治廿七年三月省令第五號ニテ但書改正)

●烟草税則施行細則

第二十條 烟草營業者營業場外ニ於テ烟草葉取葉摺又ハ實卷ヲ爲サシメントスルトキハ其仕業ノ種類及職工ノ住所氏名年齢ヲ詳記シタル書面ヲ添へ所轄收稅署ニ申出テ認可ヲ受クヘシ

前項認許ヲ受ケタルモノハ通帳ヲ製シ烟草營業者何某使用職工住所何某ト記シ之ヲ職工ニ渡シ置キ烟草ヲ授受スヘシ但通帳ハ使用以前所轄收稅署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ其附込濟又ハ使用ヲ止メタルトキハ其時々消印ヲ受クヘシ(明治廿七年三月省令第五號ヲ以テ全條改正)

總テ烟草ヲ授受スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ授受ノ證トシテ其時々受取人ニ於テ認印スヘシ

一 仕上ケ原料葉烟草又ハ實卷原料烟草ノ量目及職工ノ受取タル年月日

一 仕上ケ日限、仕上ケノ種類、量目(實卷烟草ハ原料刻烟草一斤又ハ百匁ニ付仕上ケ何分) 卷又ハ何印何分卷何百本量目何程ト區別記載スヘシ)

一 紙卷烟草ニ用エル卷紙、口紙ノ數量

通帳ハ一箇月分月計ヲ附シ置キ當該官吏ノ求メアルトキハ之ヲ差出シ檢査ヲ受クヘシ

營業者ハ職工ニ於テ烟草ヲ滅失シタルトキハ三日以内ニ其旨所轄收稅署ニ届出ツヘシ

左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄收稅署ニ届出ツヘシ

- 一 職工ニ異動アリタルトキ
- 一 通帳紛失シタルトキ
- 一 職工氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキ

第二十一條 烟草營業者又ハ烟草耕作人葉烟草又ハ製造烟草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添

付スヘシ(明治廿七年三月省令第五號ヲ以テ全條改正)

烟草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉烟草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷受主ノ氏名、住所
- 一 製造烟草ノ種類、包裏ノ區別、箇數、荷受主ノ氏名、住所

●烟草稅則施行細則

第二十二條 烟草製造人ハ烟草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クベシ

一 印紙賣渡ノ年月日

一 印紙ノ種類枚數

一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造烟草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、個數、定價、印紙、稅額ノ仕簿書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造烟草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セザル烟草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一 代替書換ハ六十日間

一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 烟草稅則及規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 烟草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十二條第六項第二十一條第二項第二十二條第二十六條第二十七條第三十一條ニ違犯シタル者ハ

一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(廿四年四月省令第七號及廿七年三月省令第五號ニテ改正)

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ烟草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ烟草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及ヒ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

●菓子稅則 明治十八年五月第十一號布告

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣神戶縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス(別紙)

菓子稅則

●菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス
 菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
 菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
 菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業者爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ三種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出張ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出張鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ
 營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢
 仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢
 出張鑑札料 一枚ニ付金十錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ寫換ヲ請フヘシ但前條ノ札鑑料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
 雇人二人アル者 一箇年 金五圓
 雇人一人アル者 一箇年 金三圓
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

(二十一年勅令第八號ニテ二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除)
 (二十一年勅令第八號ニテ本項ヲ追加)

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
 雇人二人アル者 一箇年 金五圓
 雇人一人アル者 一箇年 金三圓
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

(二十一年勅令第八號ニテ二人ノ下「以下」ノ二字ヲ追加)
 (二十一年勅令第八號ニテ本項ヲ追加)

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓

菓子稅則

雇人二人アル者 一箇年 金三圓 (二十一年勅令第八號ニテ二人ノ下以下ノ二字ヲ削除)

雇人一人アル者 一箇年 金貳圓 (二十一年勅令第八號ニテ本項ヲ追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種分ヲタス之ヲ合算スルモノトス露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クル時ノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ增稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十日 翌年二月二十八日限

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラズ

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム (二十一年勅令第八號ニテ改テ)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十六條 (二十一年勅令第八號ニテ削除セラル)

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケヌシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス (二十一年勅令第八號ニテ改正ス)

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料ニ處ス (二十一年勅令第八號ニテ本條中「及ヒ第十四條ノ」帳簿ニ記載ヲ怠リタル者」ノ文字ヲ削除セラル)

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル者ハ其營業者ヲ處罰ス

明治二十一年勅令第八號ノ改正追加ハ同年七月一日ヨリ施行ス

●菓子規則

●酒造稅則 明治十三年九月 第四十號布告

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年拾月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布生候事

(別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡酒類ヲ製造シ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ

第二條 酒類ヲ分ツテ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造

二類 蒸溜酒 燒酎(酒精再溜酒精)其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類 再製酒 醱酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石稅(十五年第六十一號) 布告ニテ改正ス

一類一石ニ付 金四圓

二類一石ニ付 金五圓

三類一石ニ付 金六圓

第四條 免稅ハ其年十一月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス 酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス(十五年第六十一號布告)ニテ本項以下追加ス

清酒 百石

濁酒 十石

一類 清酒濁酒 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ(十五年第六十一號) 布告ニテ改正ス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納稅 造石檢査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

●酒造稅則

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル稅額ノ半數(十五年第十七號
布告ニテ改正ス)

第二期 七月卅一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル稅額ノ半數(十五年第十七號
布告ニテ改正ス)

三期 十月卅一日限(十九年勅令第七十九號ニテ
九月十日トアルヲ改正ス)

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル稅額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳へ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ(十五年
第六十一號布告ニテ
本項以下追加ス)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造
場へ其酒類ヲ移ス時ハ管廳へ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅
ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒造へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ
以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二
類ニ二類ヲ三類ニ變製スル時ハ造石

稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ種類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變
製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受ク
ヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得
サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒も他仕込米
及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ツ
可シ(十六年第二十六號布告ニ
テ本項以下改正追加ス)

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及ヒ所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済ニ係
ル造石稅ヲ完納ス可シ

第三章 禁令 雜令

●酒造稅則

第二十一條 酢及ヒ酒もとテ販賣スルヲ許サス

但專故アリテ酒ともノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニアラス
十七號布告ニ
テ但書追加ス

(十五年
第五
年第

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲

メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號)
布告ニテ改正ス

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス
(十五年第
六十一號
以下改正ス)

検査既済ノ酒類ヘ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 酒類蒸溜器機ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルモ其旨申出開封ヲ請フ
ハシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ之ヲ戶外

ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ没收シ免許税額ニ
倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ己ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取
揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒造石數ノ検査ヲ受ケシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其
酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告)
但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ
科スヘシ(十五年第六十一號布告)
ニテ改正ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタルモノハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三
倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓
九十五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告ニテ改正又十六年第二十六號布告)
ニテ第十四條ノ下「又ハ第二十條」ノ六字ヲ削除セララル

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

●酒造税則

ニ處ス（十五年第六十一號布告）
ニテ本項以下追加ス

第二十條 第一項ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス（十六年第二十六號布告ニテ改正ス）

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第三十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒類營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

●酒造稅則附則（十九年七月勅令第六十號ニテ改正ス）

明治十五年十二月第六十一號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

第一條 自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ）
免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類又卸小賣營業者

一 飲店又ハ旅館營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石（二種以上製造スル者）
ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡シタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ全シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

●酒造稅則

大政官第四十三號布告 明治十六年 十二月

酒造稅則發賣營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證據取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證據ヲ携帶スヘシ

大藏省第三十七號達 明治十六年 十二月

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り證據取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシメ候樣取計フヘシ此旨相達候事

大藏省令第二十七號 明治十九年 八月

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

- 第一項 酒類稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ
- 第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳へ届出ヘシ
- 第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ
- 第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

● 酢元用酒類製造規則 明治十六年十二月 第二十二號布告

酢元營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒類稅則中第三條免許稅第四條第貳項第三項ヲ除クノ外該規則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テテ製造スル酢ヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價追徴ス

● 酒精營業稅法 明治廿六年四月二十日 法律第十七號

第一條 酒精(アルコール)又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條 本法ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ヲ現金又ハ國價證券ヲ以テ供託スベシ

第四條 本法ノ稅金ヲ滞納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ稅金ニ充ツ仍不足スルトキ

● 酢元用酒類製造規則 ● 酒精營業稅法

ハ明治二十二年法律第三十二號國稅滯納處分法ニ據テ處分スヘシ

第五條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

甲種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取り消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ

第六條 營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムベシ但シ廢業スル者ハ其ノ際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限内ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其ノ稅金ヲ納メテ後之ヲ販賣スヘシ

第七條 第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者(造酒家ヲ除ク)ハ勅令ヲ以テ定ムル所ノ規定ニ從ヒ其ノ營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條 營業者ハ帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ
前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコトアルヘシ
第十條 無免許ニテ營業シタル者ハ其ノ現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徴ス

第十一條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若ハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シ
上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス但シ刑法

第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

●酒精營業稅法施行細則 明治二十六年六月二日 大藏省令第十號

酒精營業稅法施行細行左ノ通相定ム

第一條 酒精營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ一箇年販賣見込石量ヲ記載シタル願書ヲ管廳ニ差出シ營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

營業場ハ倉庫建物ノ棟數ニ拘ハラズ總テ一區域ヲ以テ一箇所トス其區域外ニシテ營業物品ヲ藏置スルニ止マル場所ハ許可ヲ受ケ營業場ノ附屬トナスコトヲ得

第二條 前條ノ願書ニハ稅法第三條ノ制限内ニ於テ一箇年販賣見込高ノ稅金ト同額ナル現金又ハ國債證券ノ供託受領證ヲ添フヘシ但明治二十六年勅令第五十八號第二條ノ認許ヲ受ケントスル者ハ之ヲ要セス

營業免許後販賣見込石量ヲ增加セントスルトキハ其都度申出テ稅法第三條ノ最高額ヲ限度トシ保證金ヲ追補スルコトヲ得

●酒精營業稅法施行細則

營業免許後販賣見込石量ヲ減少セントスルトキハ其都度申出テ税法第三條ノ最低額ヲ限度トシ
保證金ヲ減少スルコトヲ得

第三條 免許鑑札ヲ受クル者ハ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシ第十條ノ場合ニ於テモ亦同シ

鑑札料ハ明治二十五年大藏省令第三號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條 税法第三條保證ニ充ツル國債證券ノ種類及價格ノ割合左ノ如シ

- 一 有利國債證券
- 一 大藏省證券

國債證券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

第五條 營業者ハ酒精營業免許ト書シタル標札ニ免許鑑札番號ヲ記載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第六條 免許ヲ受ケタル者ハ營業開始後七日以内ニ其營業場ニ使用スル諸器械容器類ノ目錄並ニ

地所諸建物ノ圖面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ツヘシ

第七條 營業者ハ税法第八條ニ基キ營業ノ種類ニ從ヒ左ノ帳簿ヲ調製シ其使用前所轄間稅分署ニ
差出シ其檢定ヲ受クヘシ

- 一 酒精製造帳又ハ買入帳
- 一 酒精賣上帳

一 製造原料品買入及遣拂帳

税法第五條第二項ニ該當スル者ハ酒精買入帳及使用帳ヲ調製スヘシ

第八條 第七條ノ帳簿及左ノ帳簿書類ハ附込濟又ハ受授ノ翌年ヨリ三年ヨリ少ナカラサル期間保
存スヘシ

一 營業ニ關スル金錢物品判取帳

一 營業ニ關スル送狀仕切書及受取書

第九條 營業者ハ毎年其販賣酒精ノ石量又税法第五條第二項ニ該當スル者ハ其消費高ヲ翌年一月
七日限、管廳ニ届出ツヘシ但營業者廢業ノトキハ其際之ヲ届出ツヘシ

税法第六條第二項ノ場合ニ於テハ販賣前其超過スヘキ見込石量ヲ届出ツヘシ

營業稅額ハ前各項ノ届出ニ依リ地方長官之ヲ査定ス

第十條 營業場ニ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳へ申出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

他ノ管轄地へ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出テ添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳
ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出テ鑑札ノ書換ヲ再渡ヲ請フヘシ

第十一條 代替リノトキ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ管廳ニ届出テ免許鑑札ニ變更ノ記入ヲ
請フヘシ

第十二條 營業者及税法第五條第二項ニ該當スル者ニシテ酒精ヲ買入ル、トキハ著荷後三日以内
ニ所轄間稅分署ニ届出テ左ニ掲クル書類ノ一若クハ其他取引上證據トナルヘキ書類ニ當該官市
ノ檢印ヲ受クヘシ

一 荷物送り状

一 仕切書

一 代金領收書

第十三條 税法第五條第二項ニ該當スル者住所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ其旨ヲ所轄關稅分署ニ届出ツヘシ

第十四條 天災其他ノ事故ニ依リ酒精ノ廢業ニ屬シタルトキハ直ニ所轄關稅分署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十五條 營業者廢業スルトキハ管廳ニ申出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十六條 第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●醫藥用及工業用酒精營業稅免除ニ關スル件明治二十六年五月三十日 勅令第五十八號

第一條 酒精營業稅法第七條ノ醫藥用トハ日本藥局方ニ據リ製藥用ニ供スルモノ又ハ醫術用ニ供スルモノヲ云ヒ工業用トハ工藝製作ノ用ニ供スルモノヲ云フ

第二條 醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣又ハ使用スル者ニシテ營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スル者ハ豫メ管廳ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫藥用外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第四條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者、醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ノ外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師若クハ藥劑師、藥種商及製藥者ニ於テ其酒精ヲ自用者ニ賣渡シ又ハ讓渡シ得ルハ其自ラ診療スル患者若クハ醫師ノ證明書ヲ有スル者ナル場合ニ限ル

第五條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ハ其酒精ヲ醫藥用外ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人ノ住所、職業、氏名(醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者ニ販賣シタル場合ハ住所氏名)ヲ帳簿ニ詳記シ每一箇月分ノ月計ヲ附記シ左ノ書類ト共ニ翌月五日限り管廳ニ差出シ帳簿ニ免稅ノ捺印ヲ受クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スヘシ

一 醫師ノ證明書又ハ買受人若クハ讓受人ニ於テ量數、年月日、住所、職業及氏名ヲ記載シ捺印シタル注文書、物品領收書等

第七條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ハ其都度量數代價及賣渡人若クハ讓渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

前項ノ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ醫師ノ證明書(醫師ノ場合ニ於テハ處方書)ヲ添ヘ置クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スベシ

●醫藥用及工業用酒精營業稅免除ニ關スル件

前各項ノ帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第八條 工業用酒精ニ係ル營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スル者ハ販賣若クハ使用以前ニ管廳ニ其母數ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ當該官吏ハ百分ノ八乃至十ノ割合ヲ以テ願人ノ望一從ト木精(メチールアルコール)若クハ石油ヲ混和スヘシ但其物品ノ費用ハ願人之ヲ負擔スヘシ
第九條 第三條第四條第五條ヲ犯シタル者及第六條第七條ノ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

● 醬油營業稅則 明治十三年九月 第四十一號布告

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬油醸造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所ニ許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

營業稅 金五十圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札ヲ賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ (十五年第六十二號布告ニテ本項追加ス)

第七條 免許鑑札ヲ却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
第八條 免許ヲ受ケタル者ハ營業賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少テカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣營業ヲ爲シ又ハ酒類(醬油ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サス (十五年第六十二號布告)ニテ本條以下追加ス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル者ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

● 醬油稅則 明治廿一年六月十六日 勅令第四十七號

第一條 醬油溜ヲ併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク

● 營業稅則 ● 醬油稅則

ヘシ但製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業者及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 醬油 諸味一石ニ付 金一圓
溜ハ 製成一石ニ付 金一圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同七月三十一日

限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日迄ノ間査定済石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日迄ノ間査定済石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間査定済石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ
造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

シ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其

造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受蓋キ其買受讓

受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ

移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ

造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但

書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢業

ニ属シタルキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受ケ置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其

他證據ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ

●醬油稅則

下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタ
ル蠶油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 蠶油製造人ノ製造スル蠶油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此
税則ニ從フヘシ

蠶油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ蠶油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 蠶油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ蠶油ヲ製造スルコトヲ得ス

其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル蠶油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 蠶油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所蠶油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳
簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

但當該官吏ハ其證券ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證
憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證券ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ蠶油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處
ス仍ホ其蠶油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 蠶油製造人ニシテ蠶油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍
ホ其犯罪ニ係ル蠶油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ查定ヲ受ケサル者第八條第九條第十條第十六條ヲ犯シタル者及蠶
税ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル
者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル蠶油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金
ヲ追徴ス

第二十四條 此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 蠶油製造人ノ家屬雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

蠶油製造人十六歳未滿ノ幼年者及癲瘋白癩又ハ癩啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ
處罰ス

第二十六條 此税則施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附 則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施
行ノ地ニ輸送スル蠶油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

●蠶油税則

第二十九條 此規則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製製人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三日以内ニ管廳ニ届出ヘシ

●醬油稅則施行細則 明治二十一年八月三日 大藏省令第九號

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トナシ之ニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ 新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辦セシムヘシ

第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帖簿ニ記載シ置クヘシ

第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑 口頭ヨリ三寸 口底徑 底板面 口徑下リタル箇所 胴徑ノ中央底徑ノ箇所 孰レモ内測ニテ縱橫 \oplus 圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シニテ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス

算 則

但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四

シニテ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得

容器中幾類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

●醬油稅則施行細則

第九條 石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ
入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ
シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス 徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス
假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分
シ其得ル石數ヲ容積簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル 此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニ

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニ
トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑

ヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス
假定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乘シ甲トス
假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條 蠶油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ

鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 代替書替ハ 六十日間

一 其他ノ書替再渡ハ 十日間

第十二條 製却場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日
以内ノヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定済ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納
ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳説シ所管租稅檢
査員派出所ニ申出ヘシ前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認
スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未済ノ蠶油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢業シタルトキハ直ニ所管租

稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 蠶油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

一 蠶油製造原品買入帳

一 蠶油製造帳

一 蠶油仕込帳

一 蠶油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出蠶油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名稱、石數、價
數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受

●蠶油稅則施行細則

第十九條 造石税ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ税關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油製石税下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 税則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名ノ石數、箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受クヘシ

第二十二條 税則及此細則ニ於テ石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 税則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

第一章 藥品營業並藥品取扱規則 明治廿二年三月十五日 法律第十號

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ 藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ベシ

第九條 藥劑師ニ非ラサレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルキハ十日以内ニ地方廳ヘ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設ケルキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記

●藥品營業並藥品取扱規則

シ又ハ調印シタル処方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但処方箋中疑ハシキ廉アル時ハ其醫師ニ留シ證明書ヲ得ルニ非ザレバ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ処方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師捺印シテ処方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ処方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ処方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局ニモ記載セザル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付ス

●藥品營業並藥品取扱規則

ヘカラム

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅匈語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効テ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科及高等中學校醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(廿五年六月法律第六號ニテ追加セラル)

●藥品營業並藥品取扱規則

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

●藥用阿片賣買並製造規則

明治十一年八月
第二十一號布告

明治三年八月布告阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ內務省ヨリ可相違事

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限り此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ

地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ(二十年勅令第五十二號ニテ改正但書削除セラル)

第三條 地方廳ヨリ拂下ケル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付スルモ

ノトス(二十年勅令第五十二號ニテ改正セラル)

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ量リ一管内相當ノ人員ヲ限り藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省

ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納ス可シ

第五條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告

ス可シ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速カニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置ケ可

シ

第七條 特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立テ其拂下ヲ請フ

ヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フヲ得(二十年勅令第五十二號ニテ改正セラル)

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルモ其量目并ニ其住所姓名及ヒ年

月日(病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之

ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ユヘカラス

但シ病院及ヒ醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買ス

ルコトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ユヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并一般藥舖ニ於テ一切之ヲ

賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣

捌ノ總高等明細表正副二通ヲ作り其管轄廳ニ差出スヘシ尤モ一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記

シ置キ臨時取調ノ用ニ供ス可シ

但シ管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必スシモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其

明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

●藥用阿片賣買並製造規則

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但内務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ (二十年勅令第五十二號) (ヲ以テ但書追加ス)

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豊凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 内務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下ケル阿片ノ「モルヒ子」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以

上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第一章 賣藥規則 明治十年一月二十日 布告第七號

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥溶劑散藥煎藥等ヲ調製シ功能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ 十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出

許鑑札ヲ受クヘシ (管轄廳)ノ下八字ヲ削リ 十一年第二十七號布告ヲ以テ

但免許ヲ受ケタル者ニ箇所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク可シ 十五年

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製造配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サハルヘシ (管轄廳)ノ改メ(毒藥)ノ上(劇藥)ノ二字ヲ加フ

第四條 (第八條ニ記シタル期限中)藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受ク可シ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ク可シ 十年

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲ク可シ

第七條 賣藥營業者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サントスルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持ス可シ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受ク可シ 十九年十一月二十五日勅令第七十二號ヲ以テ營業免許期限ヲ廢ス

賣藥規則

第九條 (第八條ニ記シタル期限内) 第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スルトキハ新鑑札記載ノ日ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許(期限)内ト雖モ其製造第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(有害)ニ改ム

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルル時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受ク可シ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣書免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ札鑑名前書換ヲ請フ可シ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納ス可シ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納ス可シ十四年第二十六號布告ヲ以テ(賣藥營業鑑札料)ノ次(賣藥請賣鑑札料)及ビ(賣藥行商鑑札料)ノ二項ヲ削リ(右)

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ケ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金貳十錢

但第二條但書ニ因リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ム可シ十五年第二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ム可シ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納ス可シ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ム可シ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ日割ヲ以テ税金ヲ納メシム可シ十一年第二十七號布告ヲ以テ(有害)ニ改ム

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科

賣藥規則

ス可シ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ
十四年舊廿六號布告ヲ以テ(管業スル者)ノ下卅八字ヲ追加ス

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フ可シ

●賣藥印紙稅則 明治十五年十月二十七日 布告第五十一號

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一 定價膏錢迄

印稅 膏厘

- 一 全貳錢迄 全 貳厘
- 一 全三錢迄 全 三厘
- 一 全五錢迄 全 五厘
- 一 全拾錢迄 全 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

- 壹厘 淡 黑色
- 貳厘 青 色
- 三厘 黃 色
- 五厘 茶 褐色
- 壹錢 赭 色
- 貳錢 綠 色
- 三錢 濃 青色
- 四錢 橙 黃色
- 五錢 紫 色
- 拾錢 深 紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

●賣藥印紙稅則

但印紙面ノ中心ヨリ他所へ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス
印紙貼用雛形圖面略ス

● 證券印稅規則 明治十七年五月 第十一號布告

第一條 凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證券帳簿ハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 證券帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類 左ニ掲クル處ノ證券帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス可シ但シ三三預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フヲ得

一 當座預金引出小切手	印稅	五厘
一 委任狀	同	五厘
一 金高記載ナキ約定證文	印	壹錢
一 遺物證文	同	壹錢
一 跡式讓證文	同	壹錢
一 讓與證文	同	壹錢
一 期限ヲ定メサル預リ金證文	同	壹錢
一 耕地小作證文	同	壹錢
一 雇人請合狀	同	壹錢
一 金高記載ナキ諸物品預リ證文	同	壹錢
一 金高記載ナキ諸物品借用證文	同	壹錢
一 地所	同	壹錢
一 家屋預リ證文	同	壹錢
一 諸物品切手	同	壹錢
一 借地	同	壹錢
一 借家證文	同	壹錢
一 賣買仕切書	同	壹錢
一 保險證文	同	壹錢
一 諸會社株券	同	壹錢

● 證券印稅規則

- 一送金手形 同 壹錢
- 一金錢 同 壹錢
- 一諸物品通帳 同 壹錢
- 一金錢取帳 同 貳拾錢
- 一諸物品取帳 同 壹錢
- 一結社約定書 同 壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシ

ト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

左ニ掲クル處ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一營業ニ關スル送狀 印稅 壹錢

一營業ニ關スル受取書 同 壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第二類

左ニ掲クル處ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但爲換手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フ可シ

一金錢借用證書

一住所 營業證書

一金高記載アル諸物品預リ證書

一金高記載アル諸物品借用證書

一諸物品賣買證書

一金錢定期預リ證書

一金高記載アル諸般ノ契約證書

- 金高壹圓以上貳拾圓未満 印稅 壹錢
- 金高貳拾圓以上五拾圓未満 同 貳錢
- 金高五拾圓以上百圓未満 同 四錢
- 金高百圓以上百五拾圓未満 同 六錢
- 金高百五拾圓以上貳百圓未満 同 八錢
- 金高貳百圓以上三百圓未満 同 拾壹錢
- 金高三百圓以上四百圓未満 同 拾四錢
- 金高四百圓以上六百圓未満 同 貳拾錢
- 金高六百圓以上八百圓未満 同 貳拾六錢
- 金高八百圓以上千圓未満 同 三拾貳錢
- 金高千圓以上千四百圓未満 同 三拾八錢
- 金高千四百圓以上千七百圓未満 同 四拾四錢
- 金高千七百圓以上貳千圓未満 同 五拾錢
- 金高貳千圓以上貳千五百圓未満 同 六拾錢

●證券印稅規則

金高貳千五百圓以上三千圓未滿
 金高三千圓以上三千五百圓未滿
 金高三千五百圓以上四千圓未滿
 金高四千圓以上

同 七拾錢
 同 八拾錢
 同 九拾錢
 同 壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ從ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

金高百圓未滿

印稅 四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ル可シ

一金高當座預リ證文

一買物小札

金高壹圓以上貳拾圓未滿

印稅 壹錢

金高貳拾圓以上

同 貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

金高百圓未滿

印稅 貳錢

金高百圓以上

同 四錢

一爲換手形

一荷爲換手形

一約束手形

金高五拾圓未滿

印 壹錢

金高五拾圓以上百圓未滿

同 貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿

同 四錢

金高貳百圓以上五百圓未滿

同 八錢

金高五百圓以上千圓未滿

同 拾五錢

金高千圓以上貳千圓未滿

同 貳拾五錢

金高貳千圓以上

同 五拾錢

第三條 前條ニ掲グル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラヌ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 印紙ヲ貼用ス可キ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判

上之ヲ受理セス但諸罰ヲ受クル後用紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿

ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印ス可シ

第六條 印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及手形用紙ハ官ヲ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用ス可キ帳簿仕切書送狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアル可シ

第九條 左ニ掲ソレ所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

- 一官廳ヨリ差出ス證書帳簿
 - 一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
 - 一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預金ニ對スル抵當證書
 - 一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
 - 一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス證書
 - 一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書
 - 一罹災救助金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書
- 第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載ス可シ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載ス可シ
- 第十一條 證書貼簿ニ稅率ニ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第十二條 印紙貼用簿第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受ク可シ
- 第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ尽キザルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ

- 増加シタル紙數ヲ記載ス可シ
- 第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルヲ得
- 第十九條 印紙ヲ貼用ス可キ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形附紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形附紙ヲ用ヒタルモノハ脱稅高二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス此證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
- 第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタル者ハ印稅高十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
- 第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル料料罰金ノ半額ニ相當スル料料又ハ罰金ニ處ス
- 第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 第十條及第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

●證券印稅規則

第二十四條 第十二條及第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賞得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

●民事訴訟用印紙法 明治廿三年八月 法律第六十五號

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ	二十錢
同 十圓マテ	三十錢
同 二十圓マテ	六十錢
同 五十圓マテ	一圓五十錢
同 七十五圓マテ	二圓二十錢
同 百圓マテ	三圓

同 二百五十圓マテ	六圓五十錢
同 五百圓マテ	十圓
同 七百五十圓マテ	十三圓
同 千圓マテ	十五圓
同 二千五百圓マテ	二十圓
同 五千圓マテ	二十五圓
同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ定規ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用スヘシ
 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的ガ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 第一 抗告
- 第二 故障
- 第三 證據調ノ申立

●民事訴訟印紙法

- 第四 假差押及ヒ假處分ノ申請
- 第五 判決ノ送達アラシコトヲ求ムル申立
- 第六 執行カアル正本ヲ求ムル申立

但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ビ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依

リ訴ガ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再ヲ審求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書

類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼

用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サ

ス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現

在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印

紙ヲ沒收ス

紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

●商事非訟事件印紙法明治二十三年八月十五日
法律第六十六號

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下

數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ

但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲グルモノニ付テハ五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲グルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辯

二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團

管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額

●商事非訟事件印紙法

ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除ス可キモノトス

百七十六

財團ノ價額五 圓マテ

四十錢

同 十 圓マテ

六十錢

同 二十圓マテ

一圓二十錢

同 五十圓マテ

三圓

同 七十五圓マテ

四圓四十錢

同 百 圓マテ

六圓

同 二百五十圓マテ

十三圓

同 五百 圓マテ

二十圓

同 七百五十圓マテ

二十六圓

同 千 圓マテ

三十圓

同 二千五百圓マテ

四十圓

同 五 千 圓マテ

五十圓

同 五 千 圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ

第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金額高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用スヘシ

第六條 協諾契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙ヲ貼用ス可シ
第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス
民事訴訟用印紙税法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス

商標條例 明治三十一年十二月十八日 勅令第八十六號

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルニトテ得

商標ハ特別著明ナル圖形又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲ケル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 商品普通ノ名稱若クハ内外國旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ

三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商標ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但し其明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

商標條例

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標専用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ル者トス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相続者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限り其商標専用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フモノトス
一 登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ

二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間に止シタルトキ

三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五 登録商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其専用年限満期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録ヲ毀損若クハ亡シタルトキハ事由ヲ具シ再下付テ出願スルコトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添テ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金壹圓

二 登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ 金三圓

一 商標ニ付商品一類毎ニ

三 登録證ノ再下付テ出願スルトキ

●商標條例

證書一枚毎ニ

百八十

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ

金壹圓

一商標ニ付商品一類毎ニ

金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ

金七圓

一事件毎ニ

第十八條 商標登録證又ハ其改訂登録證又ハ其續用登録證ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覧ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知り之ヲ同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録證ヲ受ケサル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

●意匠條例 明治二十一年十二月十八日 勅令第八十五號

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模様若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ
二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ
第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

●意匠條例

第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願人一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受ケヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルヲ得
第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スヘシ
第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ
 - 一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金五拾錢
 - 二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ 金三四
 - 三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ

●意匠條例

證書一枚毎ニ

百八十四

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ

金壹圓

一意匠ニ付物品一類毎ニ

金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ

金七圓

一事件毎ニ

第十九條 意匠登録證又ハ其訂改登録證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從

七登録料ヲ納ムヘシ

一 三年ノ専用

金壹圓

二 五年ノ専用

金貳圓

三 七年ノ専用

金四圓

四 十年ノ専用

金八圓

第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ複製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録意匠ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知り之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知りテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐偽ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登録意匠主ニ給付シ其罪ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

●特許條例 明治二十一年十二月十八日 勅令第百八十四號

●特許條例